

専門部会の議論の内容について

《第1回専門部会》 開催日：平成25年7月11日（木）

【主な議論】

- 専門部会の役割は、市長が信濃川のあり方について判断できるように、信濃川のあり方検討委員会としての方向性が提言できるような議論をすることであることを確認した。
- 専門部会では、河川環境と河川利用の調和の観点から、信濃川中流域水環境改善検討協議会での議論と違った視点からも議論する。その中で必要なアンケートを実施することとした。

《第2回専門部会》 開催日：平成25年8月8日（木）

【主な議論】

- 試験放流期間の流況及び今年度春季調査の速報について確認した。
- 宮中取水ダムについて、現代の設計基準に対する適合性、現在の設備状況、メンテナンス状況を確認した。
- 発電に関する水利使用許可期間関連の通達を確認し、JR信濃川発電所の平成27年6月30日の許可期限後の水利使用許可期間について、最長で20年の申請が可能なことを確認した。
- 市民アンケートを実施するため、第3回にアンケートの素案を提示することとした。

《第3回専門部会》 開催日：平成25年9月2日（月）

【主な議論】

- 宮中取水ダムでの取水量、信濃川発電所の発電量等について、状況を確認した。
- 市民アンケートについて議論し、第4回目に継続協議することとした。
- 5年目の試験放流に向けたJR東日本の基本的な考え方を提示してもらい議論することとした。

《第4回専門部会》 開催日：平成25年9月30日（月）

【主な議論】

- 8月末までの宮中取水ダムの流入量、取水量、放流量について、ここ10ケ年と比較して流入量が少なめの傾向が続いていることを確認した。
- 信濃川の岩沢観測所と魚野川の堀之内観測所の流量年表データをもとに、信濃川と魚野川の流量を比較した。
- 住民アンケート調査について、信濃川のあり方検討委員会での議論の参考にするために実施することとし、 $40\text{m}^3/\text{s}$ 、 $80\text{m}^3/\text{s}$ 、 $120\text{m}^3/\text{s}$ など、具体的水量を決める直接的な根拠にするものでないこととした。

- 住民アンケート調査票の案について、景観等の専門家の意見を聞くこととした。
- 5年目の試験放流の方法についてJR東日本から基本的な考え方(案)等が示され、今後、宮中取水ダム試験放流検証委員会での試験放流の評価(中間報告)を踏まえ、住民アンケートの結果等を参考にして議論していくこととした。

《第5回専門部会》 開催日：平成25年11月14日（木）

【主な議論】

- 信濃川と魚野川の流況と、両河川でのサケ採捕量について日毎のデータにて比較を行い、試験放流前は、長野県での降水による出水や中越大震災後の宮中ダムの全量放流時を除いて魚野川の方が流量が多く、試験放流後は信濃川の方が多いか、似たような流量になっていることを確認した。また、魚野川のサケの稚魚放流数が桁違いに多いので、サケ捕獲量の単純比較はできないこと、日毎の水量とサケの捕獲数の直接的な関係は薄いと思われることを確認した。

- 宮中取水ダム試験放流検証委員会の調査結果で「大きな変化は見られなかった」という部分について、調査結果資料等をもとに変化があった部分を確認した。
- 市民アンケートについて、外部の専門家の意見を踏まえ事務局案を再度提案したが、設問や選択肢の表現の工夫や、使用する写真の変更などの修正が必要であるとし、改めて提案することとした。
- 5年目の試験放流に対する考え方について、宮中取水ダム試験放流検証委員会の中間報告を受けた後、信濃川のあり方検討委員会を開催する前に、再度専門部会で議論することとした。

《第6回専門部会》 開催日：平成25年12月20日（金）

【主な議論】

- 宮中取水ダム試験放流検証委員会中間報告の概要を確認し、意見交換を行った。

（委員の意見）

- ・ ラフティングの評価に関し、流量による適正の違いについて、 $40\text{m}^3/\text{s}$ ・ $50\text{m}^3/\text{s}$ ・ $60\text{m}^3/\text{s}$ ・ $80\text{m}^3/\text{s}$ のそれぞれの違いを議論したい。
 - ・ ラフティングに関して、年度を跨がず、出水を挟まず、川の状況があまり変わらない期間における複数の放流パターンでの舟下りの評価比較をしたい。
- 5年目の試験放流方法に対する専門部会の考え方のたたき台を事務局で作成し、次回に示すこととした。
 - 信濃川の景観アンケートの内容を固めた。

《第7回専門部会》 開催日：平成26年1月17日（金）

【主な議論】

- 舟下り適性把握調査の流量別の調査データについて、平成22年度から25年度の調査結果をもとに、放流量別の舟下りの状況を確認した。
- 5年目の試験放流方法に対する専門部会の考え方について、事務局の十日町市建設課が示したたたき台について議論し、再度専門部会を開催して協議することとした。主な意見は次のとおり。

（委員の意見）

- 夏のアユ釣りの時期、秋のサケ遡上期について、試験放流後の遊漁や採捕のため、魚場の適性調査が必要だと思われる。

- ラフティングが安全で楽しく実施できると思われる流量について、同じ年の河川形態が変わらない短期間の中で流量を変えて舟下りを実施してみた方がよいのではないか。
- (冬季の放流量 $50\text{m}^3/\text{s}$ の事務局案に対し) $40\text{m}^3/\text{s}$ でもさほど環境等に影響がないのではないか。

《第8回専門部会》 開催日：平成26年2月4日（火）

【主な議論】

○ 第7回に引き続き、5年目の試験放流方法について協議し、専門部会の考え方を以下のとおりとし、信濃川のあり方検討委員会親会に報告することとした。

【1】5年目の試験放流の方法について（変動型を継続するのか、期間別の定量放流にするのか）

課題等	専門部会の考え方（試験放流方法案等）
<p>4年目の変動放流1年だけでは、変動型の検証、考察はで十分できておらず、メリット、デメリットの比較ができない。</p>	<p>変動型を継続すべき理由、やめるべき理由は、検証結果から得られていない状況だが、宮中取水ダム試験放流検証委員会において変動型を継続すべきという意見があったことや、同じ変動型のパターンで、気象条件の変化等による比較をすることも必要だと思われることから、平成26年度も25年度と同じ変動放流を基本として、いくつかの新しい試行を実施しながら河川への影響を調査してもらいたい。</p>
<p>変動型放流の実施にあたり、宮中取水ダムでのゲート操作に係る作業の負担が伴う。</p>	<p>ゲート操作の作業負担の軽減策として下記の方策が考えられ、専門部会としては支障ないことを確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①変動放流期間の短縮 (4月、5月を変動型でなく50m³/s固定放流する) ②ゲート操作開始時間の繰り上げ (5:00～6:00頃→0:30～1:30頃)

【2】季節別の放流方法について

期間	当該期間の特徴・条件等	専門部会の考え方(試験放流方法案)
4月1日～ 7月19日	融雪時期、梅雨時期なので信濃川への流入量が多く、宮中取水ダムで許可限度の取水をしても余剰分が放流される。 従って、流入量が多い4・5月に変動放流を実施しなくても、河川環境に影響を及ぼす流量にはならない。	宮中取水ダムでのゲート操作の作業負担の軽減のため、4月、5月は50m ³ /sの固定放流とし、6月1日から7月19日は平成25年度の変動型と同じ変動放流をする。
7月20日～ 9月10日	気温が高い時期のため、水温が上昇する時期にあたる。 水温が上昇すると、冷水性魚類の生息環境に影響する恐れがある。 ・水温へ影響を与える要素 ⇒水量、気温、流入水温(上流の天候)	平成25年度の変動型と同じ変動放流をする。 その中で、これまでの調査地点全てにおいて水温28℃を下回る環境を探るため、気温が上昇する時期に放流量100m ³ /sによる試験放流を10日間実施する。(ただし、流入量135m ³ /s以上の場合のみ)
9月11日～ 11月10日	サケの遡上期のため、ある程度の流量を確保した方が良いと言われている。 試験放流量が減っても、稚魚放流量が増加すると、比例して遡上数も増えてきている。	平成25年度の変動型と同じ変動放流をする。
11月11日～ 3月31日	期間を通してダムへの流入量が少ない状況である。 低水温になることから魚類も殆ど活動しなくなる。	平成25年度と同じ、40m ³ /sの固定放流とする。

【3】調査や確認を希望する事項

調査や確認を希望する事項

検証期間は信濃川で鮭漁は行っていないが、ダム下流の安定した流量を活用し、検証終了後は信濃川で漁を行いたい。5年目の鮭漁期に流量と漁場の適正調査が必要である。

年度をまたぎ、河川状況が違った状態での放流量別の舟下り調査結果は出ているが、単年度で河川状況がほぼ同じ状態での放流量別の舟下りによる、座礁や降舟などの流下状況の調査も必要と考えている。調査をしてもらいたい。

冬季の放流量については、今まで調査していなかったため40m³/sが良いのか50m³/sが良いのか、それ以外の量が良いのか判断できない。冬季も環境に影響する流量があるのかどうか、何らかの調査をしてもらいたい。

○ 事務局から、信濃川の景観に関する意識調査の中間集計結果と傾向を報告した。